市民ワークショップ「話そう!さっぽろの未来」実施報告

実施概要

「第２次札幌市まちづくり戦略ビジョン」の策定にあたり、札幌市が目指すべきまちづくりの方向性について、市民意見をいただくことを目的にワークショップを実施しました。参加者は10代～70代の札幌市民を対象に公募し、オンライン会議ツールZoomを使用したオンライン開催（全３回）としました。

当日は、参加者を3～4名ずつのグループに分け、まちづくりの８分野（子ども・若者、生活・暮らし、地域、安全・安心、経済、環境、スポーツ・文化、都市空間）について、それぞれ「10年後、どのように変化していたらよいか」「その変化を起こすためには何が必要か」をいうテーマのもと意見交換を行いました。

最終回では、各分野で出た意見を総合的に振り返り、参加者一人一人が10年後の札幌の将来像を発表しました。

日時・内容

【1回目】開催日時：令和3年9月1日（水）19:00～21:00
参加者数：43名
テーマ：子ども・若者分野、環境分野

【2回目】開催日時：令和3年9月8日（水）19:00～21:00
参加者数：39名
テーマ：生活・暮らし分野、安全・安心分野、都市空間分野、
地域分野、経済分野、スポーツ・文化分野

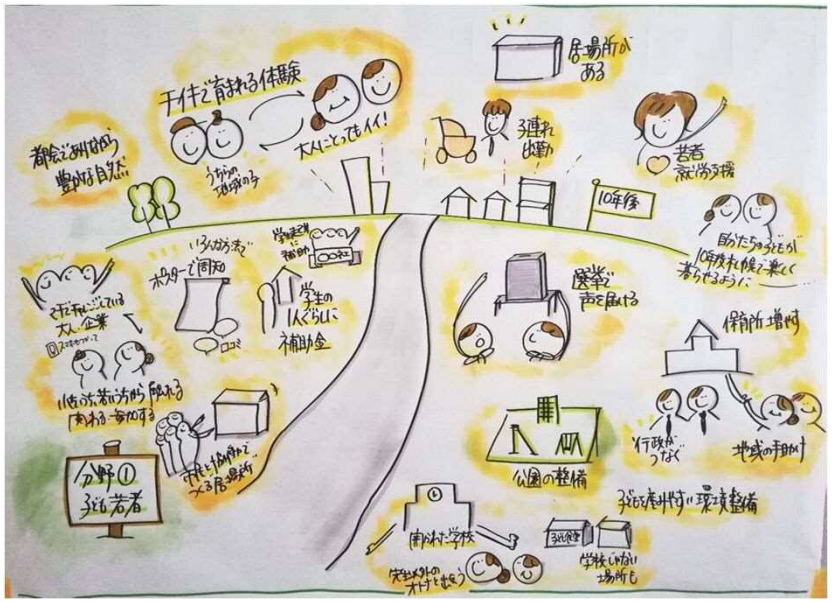
【3回目】開催日時：令和3年9月27日（月）19:00～21:00
参加者数：39名
テーマ：８分野の振り返り、10年後の札幌の姿

参加者は全員オンラインで参加。チャット等の機能も活用して、目と耳で意見を共有。

オンライン環境の用意が難しい方向けに、パソコンやカメラ、マイクを用意した参加会場も用意した（各回３～４名が利用）

①子ども・若者分野に関する主な意見

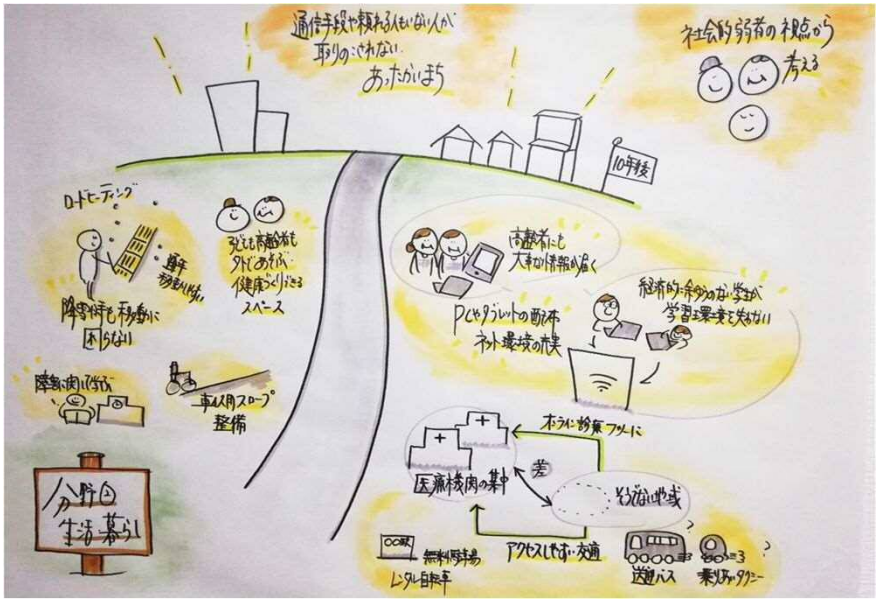
地域ぐるみで子どもを育てることが、地域の大人にとっても、より豊かに暮らすために必要なのではないか。
子どもが外で遊んだり学んだりできるよう、公園や施設が増えるとよい。 大学生などとも交流できる機会が増えるような社会。
居場所があること。若者は放課後の居場所が無い。学童の居場所も少ないと保護者から聞く。
子連れ出勤が気軽にできる環境になれば、札幌で働きたいという人が増えると思う。
子どものことだけでなく、20代30代の親世代が暮らしやすければ、子どもも暮らしやすくなると思う。
夫婦共に働ける、保育施設が充実した街に。
学生に補助やサポートがあるといいなと思う。
地域に開かれた、地域から学べる学校に。教室から地域に飛び出して学べるように。
若者の就労支援。札幌市の活性化の上で大事だと感じる。
民間企業と学校が連携して、体験型の授業を。そこに市のバックアップがほしい。
若者が選挙に参加し、自分の意見を伝えていくことが大切。



市民ワークショップ「話そう!さっぽろの未来」実施報告

②生活・暮らし分野に関する主な意見

お年寄りの健康づくりや介護予防のための歩きやすいまちづくり。 歩くためのスペースを外や商業施設内に作る。
生涯学習として、国際視点で利用できる施設や、Wi-Fi環境が整っているといい。図書館や交流空間があるものの物足りない。
オンライン診療や自宅にてかかりつけ医と健康や体調の相談ができる体制ができていたらいい。
大きな病院で気軽にセカンドオピニオンを受けられる体制づくり。
障がい者や高齢者が冬生活しにくい。小道にロードヒーティングや点字ブロックがない。
障がいや、様々な個性や特性について、学校で学ぶことができれば、他人との付き合い方もわかる。
障がいを持つ方の苦労は当事者や身近な人間にしかわからない。差別を生まないために理解を深め、協力し暮らしやすい場所にしていく必要がある。
大切な情報がどんな方にも届く札幌市であってほしい。
大雪に備えた対策が必要。



③地域分野に関する主な意見

挨拶ができるまちづくり。挨拶ができる地域は犯罪が少なくなると聞くためそういった地域にしていきたい。
さまざまな世代と交流できる機会が増えるといい。
オンラインによる国際交流で様々な言語や文化を学ぶことが大事。多様性の理解が更に求められている。
回覧板の電子化等、ICTを使用することが今後の新しい町内会活動や地域活動に必須となるのでは。
若手の町内会リーダーの育成を行政が行って欲しい。
町内会に入っていない方が多いのではないか。 若い人が関わりやすい活動に着手していく必要がある。
町内会に関心のある学生を集める。行政が広く入り口をつくり世代間で意見交換をする場をつくる。
町内会も商店街の活動もSNSのやインターネットの利用で若者に感心が出るのかも。
孤独な高齢者に対する連携。一人暮らしの方にも連絡を取りあい、地域が共有できる仕組みづくり。

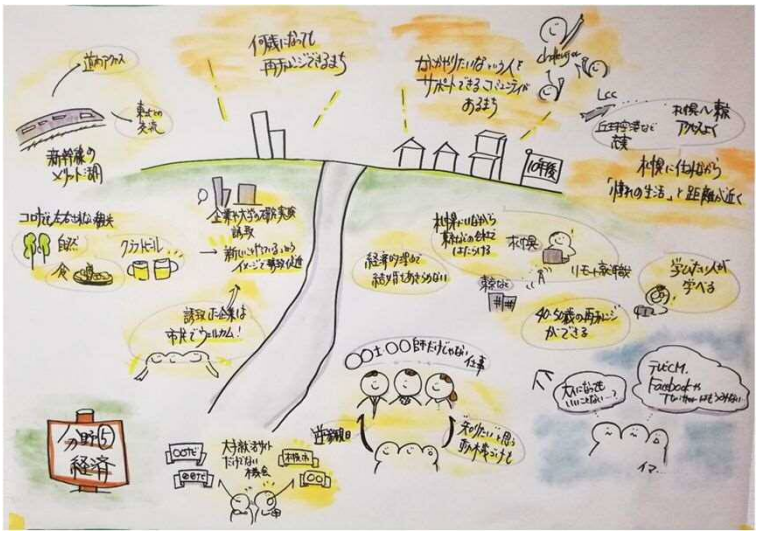
市民ワークショップ「話そう!さっぽろの未来」実施報告

④安全・安心分野に関する主な意見

地震などの自然災害時に、近隣で声を掛け合う、助け合える関係が構築されているまちに。
ライフラインがすぐに復旧できるまちに。
停電や火事など災害の体験学習ができれば緊急時の備えの意識につながる。
防災訓練を通して近所の人とのコミュニケーションがとれるまちに。
危険な場所の情報共有・犯罪や詐欺の手口など、札幌市が情報提供を積極的に。
ハザードマップの活用。マップの存在は知っているが、自分が住む地域がどういうところなのか、より明確にお知らせされるシステムがあればいい。
大学や企業で冬の生活の不便を解決する工夫を。 冬道の研究開発を助成する制度があるといい。
雪や災害で外に出るのが大変な場合は外に出なくても リモートワークや家の中で買い物できる仕組みが充実したらいい。
普段からできる見守りを。 普段から挨拶したり見守りをしたりすることで事故や事件を未然に防ぐことができる。
交通安全意識は一人一人の問題。子どもの頃から勉強しみんなでルールを守る呼びかけが必要。

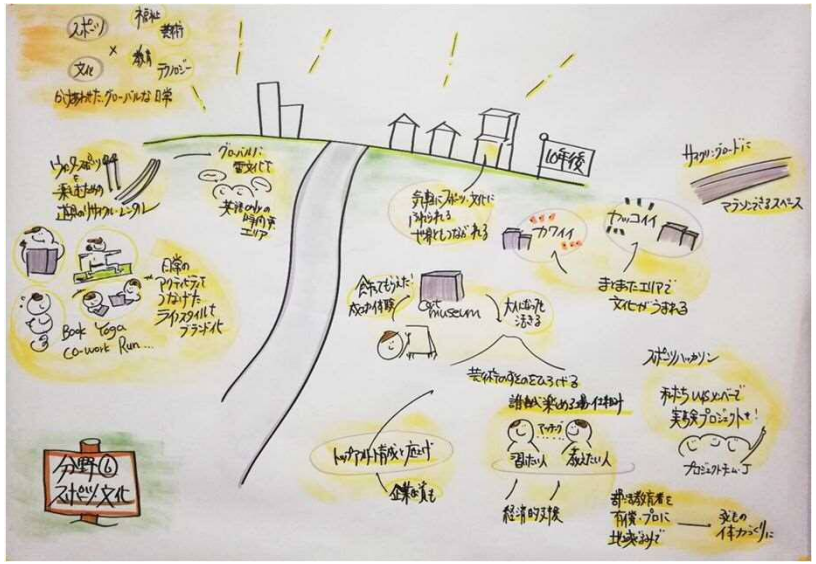
⑤経済分野に関する主な意見

コロナ禍以降の新しい価値観で食と観光を伸ばすのがいい。 従来の観光ではなく、新しい観光のスタイルを模索。
観光だけに頼らず、研究や実験といった先進的な取組をしているまちというイメージが付くといい。そうすることで、学生や研究者が集まり、企業や雇用も増え、子どもや税収も増える。
札幌市の強みは食と観光、そのほかにあまりないので、道外から将来性のある企業を呼び込みたい。
これからはIT産業の時代になると思う。ものづくりを伴わないIT系は環境さえ整えることができれば立地上で不利にならない。
道外へでなくても、オンラインの仕事が充実すればいい。
札幌に東京の会社を誘致するためには、仙台や福岡など他の自治体にとられない、選ばれるまちにならなければならない。
新幹線の活用方法の検討。貨物・観光等、札幌以外の都市の活性化へもつながれば。
小さな子どもに、たくさん仕事があることを知らせることができたら、将来の選択肢が増える。
働きたい学生と企業を、札幌市が繋いでくれるシステムがあるといい。
若い人だけでなく40代、50代でも新しい仕事にチャレンジする機会の創出。



⑥スポーツ・文化分野に関する主な意見

手軽にスキーを楽しめる環境に。スキーをやるにはお金がかかるので、まずはハードルを下げてお試しでできるようになれば。
大通公園等でウインタースポーツを紹介・体験するイベントがあればいいと思う。 カーリングやスケート等、雪まつりではないものをやってほしい。
市で、文化やスポーツのコーチの方に、教え方の研修会や講習会を開いてほしい。 教育現場の体育という観点でスポーツの大切さを導入する施策が必要。
サイクリングロードの整備で健康と観光に結びつける。
子どもたちの作品（絵画等）が、市内の施設で紹介されることで、子どもたちの心に残り、美術芸術に触れるきっかけになるといい。
芸術の森のような大きなものでなく、少しだけ文化に触れられる機会が商業施設にできるといい。
今はお店や文化がバラバラに点在してしまっているので、エリアごとに、「かわいい」「かっこいい」等の文化が生まれるとよい。東京なら、原宿は「かわいい」、浅草は「伝統的」等、エリアごとにイメージがある。まとまって発展できるようなお店や場づくりが広がれば、目的により行く場所が変わる。
習いたい人と教えたい人のマッチングが大切。 何かをやりたい人同士が出会えて行動できる場所があればいい。



⑦環境分野に関する主な意見

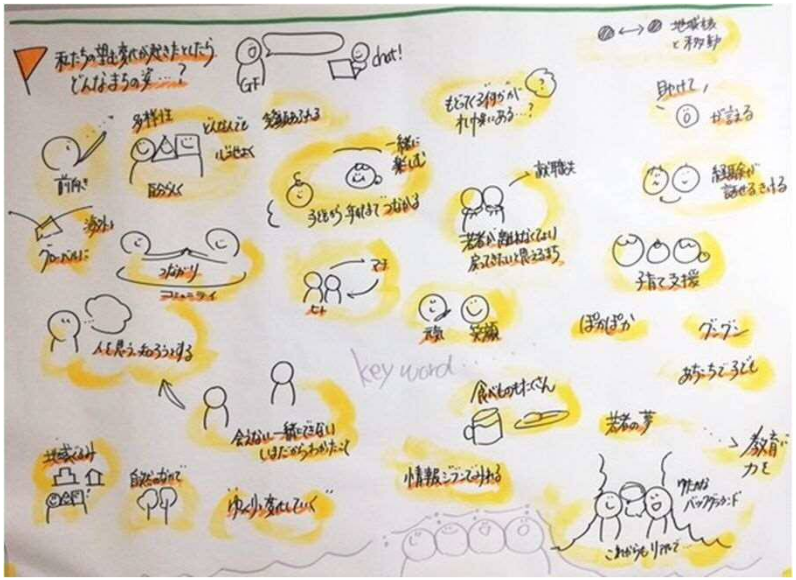
再生可能エネルギーを使っていくことが大切。
低炭素社会、グリーンエネルギーの推進。身近な生物との共生。
過剰包装など、なくてもいいものは減らしていく。 ゴミ問題について市のPRが不足しているので、呼びかけて欲しい。
札幌は建物が多いので、使っていないものを整備して有効活用することがいいと思う。
環境への方針や問題点を市民が知ることからはじめるのが重要。行政が企業へ働きかけることで、企業が動き、市民の動きや考えも変わるのではないか。
姉妹都市のポートランドは環境に関して先進的な取組をたくさん行っている。札幌も見習うべき。
市内各区に農業体験や自然体験できる場所を置き、教育に組み込む。
住宅と動物の生息地を分けることが共生のテーマに必要と考える。
サイクリングロードの充実。サイクリングはエコに繋がる大事なツール。
都市だけど自然環境が豊か。札幌にも自然環境を売りにした名所があるといい。

市民ワークショップ「話そう!さっぽろの未来」実施報告

⑧都市空間分野に関する主な意見

都会でありながら豊かな自然、公園の整備。駅前の車を排除し、人の散歩道やサイクリングロードを優先させるといいと思う。
大通公園や狸小路で、イベントやお店を出せるような環境整備。
自転車で過ごしやすい街に。冬場のために地下空間の整備。地下に自転車道があってもよい。
自然があり子どもたちが安全に遊べる公園が街中にあるといい。
中心部に集中せずに全区にうまく回る都市空間、どの地域でも移動の便がいいまち。
隙間と緑が多いまち。雪と緑が両立するまちに。
真駒内駅前に、緑が多く、人が集まれる空間が作れたらいい。
札幌市と道の共同で、まちなか中心部の緑化や交通網の整備を。バスの充実、公共交通機関の料金見直し、マイカー規制をすることで車線を減らし遊歩道を作る等。
バリアフリーの整備。点字ブロックや障がい者向けの宿泊施設等。 障がい者も健常者も両者が利用しやすい施設を作れば快適に過ごせる。
都市のいたるところに、ワーキングスペースや 学生が自習できるスペースを増やしていけるとよい。

札幌市が目指すべき都市像について

８分野の話し合いを振り返り、10年後、札幌市がどんなまちになっていたらよいか、目指すべき都市像を考えました。（意見抜粋）

すべての市民が自分らしく生き生きと暮らせるまち
子どもからお年寄りまでお互いに関わり合えるあたたかいまち
一人一人がまちに対して関心を持ち、誰一人として孤立しないまち
広い土地や自然を生かした魅力的なまち
緑豊かな自然にめぐまれた環境をつくるまち
世界中から人が集まるまち
笑顔が絶えない、人との繋がりを感じるまち
人の手と手でつながる町づくり札幌
子育てと仕事を両立できるまち
若者が定住したいまち